

令和3年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山小学校

校長 杉 本 克 治

1 学校教育目標等

夢を持ち やさしく かしこく たくましい ささっ子の育成

2 今年度の重点目標

- (1)新型コロナウイルスの感染防止の徹底を図るとともに、人権意識の高揚に努め、安全で安心な学校づくりを推進する。
- (2)児童一人一人についての理解を深め、それを日々の学習活動や生徒指導に生かす。
- (3)すべての児童にわかる・できる授業づくりにより、児童にわかる喜びを感じさせ、学力の向上を図る。
- (4)教職員の協働体制による、個に応じたきめ細かな生徒指導を進め、より良い人間関係をつくる。
- (5)ふるさと教育を推進し、ふるさと丹波篠山を愛する児童を育成する。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導の 充実	学習意欲の向上・確かな学力	A	<ul style="list-style-type: none">・国語科授業のユニバーサルデザイン化の研究を進めたこと等により、アンケートで「学校でわかったことやできるようになったことがたくさんある」と答えた児童が88%に達した。今後もこの研究を継続・発展させていく。・マイノート（自主学習）充実の取組により「毎日、マイノートを使い学習を頑張っている」と答えた児童が、昨年度より20%増加した。
	読書活動の充実	B	<ul style="list-style-type: none">・「家読の日」の設定や読書を土日の宿題に位置付けることにより、土日に読書をしている児童がやや増加した。今後も家庭と連携した取組を継続し読書習慣の定着を図る。・読み聞かせグループ及び図書館支援員による読み聞かせ、図書館支援員と連携した図書室の整備により、児童の読書への関心を高めることができた。
生徒指導の 充実	いじめ・不登校の対応	B	<ul style="list-style-type: none">・定期的な生徒指導委員会や児童間のトラブルに対するきめ細かな聞き取りにより、いじめの未然防止を図ることができた。・不登校の児童について、市教育委員会・市福祉課等と連携し、保護者を通じて児童の状況の把握に努めた。今後も連携を密にした取組を進める。
	豊かな心を育む学習・活動	A	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍ではあったが、児童の豊かな心を育む活動として、ものづくり体験、パレエ鑑賞等を行うとともに、児童会主催の夏祭りなど児童による自主的活動を積極的に進めることができた。

地域とともにある学校づくり	ふるさと教育の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年「黒豆」「オオムラサキ」の学習、6年生「お城ガイド」の学習は、新型コロナ感染防止対策を行い充実した活動ができた。しかし、その他の学年ではふるさと学習が十分にできていない。来年度は、多くの学年でふるさと学習ができるよう学び方を工夫し学習を進める。
	地域の人と連携した取組	A	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全対策について、該当地区の保護者自治会長等と連携し危険箇所の改善が図れた。 ・対面での老人会との交流はできなかったが、手紙を通じて老人会の方と温かい交流ができた。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・重点目標にある「新型コロナウイルス感染防止の徹底」は、学校として現在最も重要なことであり、今後もできる限りの感染予防を図り、学校の教育活動を進めてほしい。
- ・安全・安心な学校づくりを進めることは重点目標として必要であり、校舎が老朽化しているところについては学校運営協議会として学校と一緒に改善を図れるようにしていきたい。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・国語科のユニバーサルデザイン化の研究を進めるなど、学習指導の充実が図られている。更なる研究により児童の授業への意欲が高まることを期待している。また、1人1台パソコンを活用し、新型コロナウイルスにより長期欠席している児童に遠隔で授業を進めている点も良い。家庭のネット環境において格差が出てこないようにしていくべきである。
- ・老人会の方との手紙による交流、6年の「お城ガイド」等、地域とともにある学校づくりについて、コロナ禍であったが良く進められている。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台パソコンを活用して学習が進められることは良いが、中学校で生徒のパソコンを活用する力に差があることを強く感じる。タイピング等、最低限のところまで習得できるよう指導計画をしっかりと作って指導してほしい。 ・家庭のネット環境について調べ、新型コロナウイルスに関連して休んでいる児童にリモートによる授業が行われているのは良い。しかし、格差が生じないよう各家庭のネット環境についてきめ細かな確認が必要である。 ・国語科授業のユニバーサルデザイン化についての研究は、学力向上につながっていると思う。音楽では作曲の授業でパソコンを活用することで意欲的に学習に取り組めることを聞いている。誰もが意欲的に学べるよう、様々な教科で有効にパソコンを活用すべきである。
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにより、日頃の児童の生活についてよく調べられており、昨年度との比較もしっかりとされているが、その中の「決められた時刻までに寝ているか」という項目については課題が見られる。決められた時刻に寝られていないのはどうしてなのかももう少し探ることが改善につながる。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあっても「お城ガイド」等、充実した地域学習ができている。また、老人会の方と手紙を通じての交流ができたことも非常に良かった。今後、地域の人々との交流ができにくい状況であっても、様々な工夫をしてふるさと学習が進められるようにしてほしい。